



7. 電子部品・半導体

業界動向

市場動向～IT機器向け需要が縮小

2020年、2021年の電子部品・半導体市場は、民生電気機器の巣籠り需要や大手IT事業者によるデータセンター投資の増加等を背景に、様々な用途向けで拡大しました。一方、2022年は、自動車の電装化が進む車載向けや工場の自動化が進む産業機器向けでは堅調な需要拡大がみられるものの、景気の先行き不透明感の高まりを背景とした民生品の販売低下や企業のIT投資抑制から、PCやスマートフォン、データセンターサーバー等のIT機器向けでは需要が縮小しています。特に、需給動向により単価が大きく変動する半導体メモリでは、これまで生産能力の拡大が続いていたなか、主要搭載先であるIT機器向けの需要縮小により、単価が大きく下落しています。需給の軟化により、セットメーカー、メモリーメーカーの双方で在庫が積み上がっており、メモリーメーカーは在庫調整のため生産抑制に踏み切っています。

今後の見通し

市場見通し～中長期的には市場規模拡大の見通し

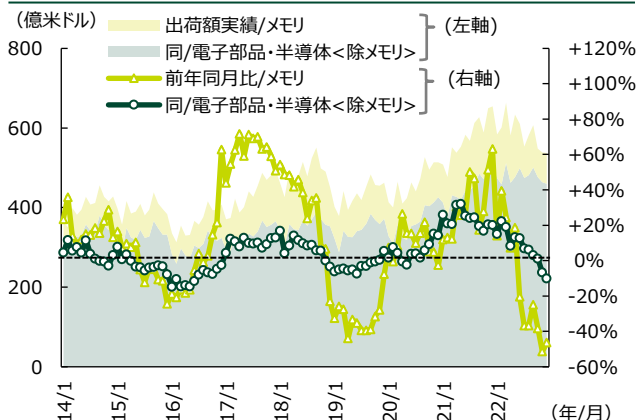
今後についてみれば、景気の先行き不透明感からIT機器向け需要の回復時期は見通し難い状況です。もっとも、車載向けや産業機器向けでは継続的な需要拡大が見込まれるほか、中長期的には、大手IT事業者の投資再拡大を背景にデータセンター向け需要の回復が期待されており、市場規模の拡大が見込まれています。

中国メーカーの動向～パワー半導体における競争激化の懸念

米国による先端半導体に関する対中規制強化を背景に、中国半導体メーカーは、先端分野への投資縮小を余儀なくされており、レガシー分野、なかでも車載向けで需要拡大が見込まれるパワー半導体への投資を活発化させています。現状では、中国製パワー半導体は、日本製等に比べて性能面で見劣りするとされることから車載分野等での採用は限定的ながら、投資拡大による生産技術の蓄積によって、中長期的に中国メーカーと日系メーカーの競争激化が懸念されています。

図表1 電子部品・半導体出荷動向(2022年12月迄)

～市場規模は縮小傾向で推移



図表2 世界の売上高上位10社(2022年度)

～大手半導体メーカーが上位を占める

	企業名		売上高 (億円)	営業利益 (億円)
1	TSMC	台	73,692	36,525
2	Intel	米	63,054	2,336
3	QUALCOMM	米	44,200	15,860
4	SK hynix	韓	35,481	5,415
5	Broadcom	米	33,203	14,286
6	NVIDIA CORP	米	30,758	9,709
7	APPLIED MATERIALS	米	26,974	5,577
8	AMD	米	25,785	7,822
9	MICRON	米	23,601	1,264
10	ASML	蘭	22,628	6,947

出所：CapitalIQより弊社作成

図表3 2022年パワー半導体出荷額シェア

～中長期的に日本・中国メーカーの競争激化懸念

